



脇本海岸 渚だより

NPO法人
脇本海岸ウミガメ・シロチドリ会
第3号（期間：2022年7～9月）

ウミガメ特集

6月3日にウミガメの上陸が始まり8月1日まで続き、合計上陸回数32回、そのうち産卵を確認したのは17か所で、55回上陸した1991年以降では最多の上陸回数でした。産卵総数は2104個、うち1152個が孵化しました（孵化率55%）。産卵17か所のうち、海水に浸かる可能性のある場所や、草の根が多い場所に産卵した卵は、1月に準備した孵化場へ移殖したことで孵化率63%と自然孵化率43%よりも高かったことはよかったのですが、合計の孵化率が55%と非常に低く、孵化率がゼロや10%前後の産卵場所もあるため原因を究明して来季に対策する必要があります。

産卵の調査保護活動（6月3日～8月1日）



6月3日上陸するも産卵せず帰海



同日こちらは砂浜の段差をやっと上り産卵した場所で卵を発見し笑顔



孵化の調査保護活動（8月4日～9月17日）

産卵後約60日で孵化するため、孵化時期になると夜中や早朝の孵化しそうな時間に頻繁に産卵場所に行き、孵化場所の整備と孵化の兆候を探りました。孵化の瞬間に立ち会うことはできませんでしたが、監視カメラを設置したことで砂から這い出す瞬間を捉えました（写真1）。9月初旬の台風では高所に設置した孵化場まで波が押し寄せ、砂を流したため孵化直後の子ガメが流されました（写真2）。たまたま草むらで1匹発見したため、大搜索したところ約140匹発見しました。そのまま見過ごしていたら翌朝には全滅していたかもしれません。孵化が終わった17か所は全て掘り起し、孵化した卵と死滅した卵や子ガメの数を調査して記録しました（写真3）。



（写真1）右下の巣から這い出し一斉に海へ向かう



（写真2）台風で草むらに流された子ガメ



（写真3）孵化後調査

保護活動への関心の高まり

鶴翔高校ではウミガメの保護に興味を持つ学生グループがあり、何度も海岸に足を運び、産卵や孵化の現場を確認しました。高校にウミガメ研究のクラブを設立することも検討中とのことで、若い人たちに保護活動の輪が広がることを期待しています。

(左写真) 日没後、孵化場の前でメモを取りながら産卵・孵化のことを熱心に聞く親子

(右写真) 夕方の孵化調査時に見つかった子ガメを海へ放す学生たち



今後の課題

砂浜の減少や気温、海水温の上昇などの自然環境の変化はNPOの力だけではどうしようもありませんが、移殖や産卵場所に日よけや天敵防御の網など、できることを対策してウミガメの孵化率を少しでも上げる取り組みを続けます。上陸回数を上げるために、「夕刻以降の静かで真っ暗な海岸作り」をさらに進めていきます。ウミガメ保護の活動に賛同していただく人の輪を広げて、行政を動かしていきたいと考えています。

感謝

今年の1月の孵化場の整備の件では、海岸の漂着ゴミの清掃をされている川畑産業さんに多大なご協力を頂きました。この孵化場が結果的に非常に有効でした。

(写真は6月のNPO総会で感謝状を受け取る川畑産業会長)



(7月) 脇本小学校でシロチドリ教室開催



6月に開催した大川内理事長のウミガメ教室に続き、7月には石澤理事によるシロチドリ教室を開催しました。昨年までウミガメ教室の中でシロチドリも勉強していましたが、今年からシロチドリ教室が追加されました。3年生2クラス全員が一つの教室に集まり、シロチドリの動画を見ながら、「かわいい」、「何を食べているの?」、「オス・メスはどうやってみわけの?」など多くの質問があり、絶滅危惧種についてにぎやかに楽しく勉強しました。

(9月) NPO法人の看板設置

柏木木工所さんから立派な板の提供があり、NPO法人の看板を作らせていただきました。事務所(大川内宅)の入り口に取り付けさせていただきました。ありがとうございました。

(写真は 看板の前で笑顔の提供者の柏木さん)

